

会 議 記 録

次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第 1 回瀬戸・高松広域連携中枢都市圏推進委員会
開催日時	令和 3 年 1 1 月 1 9 日（金） 1 0 時 0 0 分～1 1 時 0 0 分
開催場所	Web 開催
議 題	（ 1 ） 瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの目標達成状況及び 取組事業の評価（令和 2 年度分） （ 2 ） 瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン（ K P I ） の見直し について （ 3 ） 瀬戸・高松広域連携中枢都市圏における取組事業の新規・拡 充等について（令和 4 年度以降実施分） （ 4 ） その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	大西会長、十川副会長、大山委員、松原委員、上村委員、井上委員、三枝委員、高橋委員、松本委員、谷委員、富田委員、小林委員、井下委員、前田委員
傍聴者	0 人 （定員 5 人）
報道機関	0 人
担当課及び 連絡先	政策課（087-839-2135）

会議経過及び会議結果

会議の概要は、次のとおり

議題（ 1 ） 瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの目標達成状況及び取組事業の評価（令和 2 年度分）

（会長）

瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョンの目標達成状況及び取組事業の評価（令和 2 年度分）について、事務局から説明いただきたい。

【事務局から説明（資料 3 ～ 1 3 ページ）】

議題（２）瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン（K P I）の見直しについて

（会長）

瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン（K P I）の見直しについて、事務局から説明いただきたい。

【事務局から説明（資料 1 4 ～ 1 8 ページ）】

議題（３）瀬戸・高松広域連携中枢都市圏における取組事業の新規・拡充等について（令和４年度以降実施分）

（会長）

瀬戸・高松広域連携中枢都市圏における取組事業の新規・拡充等について、事務局から説明いただきたい。

【事務局から説明（資料 1 9 ～ 2 3 ページ）】

（委員）

当市も大きな自治体ではないので、校務支援のようなシステムを独自で導入するとなると、イニシャルコストやランニングコストが課題になる。それを解決するために、連携中枢都市圏の中で解決できるものがあれば、連携していきたい。

教職員の方は香川県内の異動があるので、いろいろな自治体で共有できるのは、非常にいいことだと思う。

（会長）

今後も、広域連携ができるかどうかを、連携自治体と協議をしていくところなので、高松市としても前向きに捉えさせていただきたい。

（事務局）

香川県から県内の全市町の首長様に、かがわD X ラボのお話をさせていただいている。デジタル活用での改革を目指していくところなので、今後、連携中枢都市圏の中でも協議をさせていただきたい。

(事務局)

県下全域での校務支援システムの統一については、県が主導してやっていたが、頓挫した経緯がある。本市としては、システムの更新に合わせて、できるところからというところで、まず三木町とやっていきたい。

(委員)

推進委員会をWeb会議でやることは賛成だが、出席者からあまり意見が出ないとなると、このやり方でいいのかという議論にもなるので、一言発言したい。

校務支援システムの共同利用に関する仕様を、高松市において検討していただけるということなので、その中に当市も入って、出来る限り共同使用したいと考えている。

現在の市民生活は、自身の自治体の中だけで完結するものではなく、生活圏域が広域化しているので、可能な限り、市民・町民の生活圏に合った行政サービスを考えていかなければならない。そういった意味では、この連携中枢都市圏というのは非常に素晴らしいと思う。一つでも二つでも、共同でできるものを見つけ、市民・町民の生活の利便性の向上に結び付くようなことをやっていきたい。

(会長)

行政分野には広域で取り組むほうが、メリットが多いものが結構あると思うので、今後とも協議をさせていただければと思う。

中枢都市として、高松市である程度うまくいっているものの中で、横展開できるようなものについては、連携市町の協力もいただきながら、横展開し、広域で取り組んでいきたい。

(委員)

観光事業についてだが、昨今の新型コロナウイルス感染症の影響で、小豆島でも観光産業が大打撃を受けている。今後、アフターコロナを見据えて、観光客の誘致を考えていかなければいけない。2025年に大阪万博があるが、それに向けて観光ルートなどのPRをしていかなければならないが、その点についてお聞きしたい。

(会長)

観光振興は、この連携中枢都市圏で取り組んでいる事業の中でも、重要度の高いものであると思う。その分、高松市と連携市町が一緒になって取り組んでいくこと

になるが、当面は新型コロナウイルス感染症の状況を注視する必要がある。

来年は、瀬戸内国際芸術祭や、高松国際ピアノコンクールが開催される。また、屋島山上交流拠点施設のオープンも控えており、この地域の観光事業を盛り上げていくことができれば、2025年の大阪万博に繋がる観光振興の足掛かりになるのではないかと考えている。

(委員)

コロナ禍だが、高松市内の学生が、小豆島に修学旅行に来ていただいている。逆に、小豆島内の学生が、県内の観光地を訪れている。こういった圏域内での交流を深めていくことは、今後も必要だと思う。

また、議題1において航路の問題が出ていたが、航路についても、引き続き維持していきたいと考えている。

(会長)

今はインバウンドが全く期待できないので、この状況が当面続くのであれば、国内での誘客を一生懸命図っていくことが大事だと思う。特に今、修学旅行の動きが、国内の観光地を賑わしているということもあるので、これまであまり取り組めていなかったスモールツーリズムといった分野について、これを機会に、きちんと目を向けて、誘客を図っていくということが必要だと思う。連携市町とも一緒になってやっていきたいので、よろしく願いしたい。

議題(4) その他

(会長)

せっかくの機会なので、議事全般、また、各市町の共通する事項について、意見や質問等があれば、御発言いただきたい。

〔意見無し〕

(会長)

以上で、本日の会議を終了する。